

第 2 回橋本市の自治と協働をはぐくむ委員会 会議録

会 議 名	第2回橋本市の自治と協働をはぐくむ委員会会議
日 時	令和7年8月18日（月）13時30分～15時05分
場 所	旧市民会館2階第3会議室A B
出席者 （敬称略）	堀内 秀雄 乾 幸八 前田 陽一郎 平家 利也 森田 知世子 米坂 薫 石田 彪我 中川 多賀子 上江 恵子 岸田 昌章 松山 泰久 東 美樹 平田 敬二 福澤 稔 向 律子 【出席委員：15名】
欠 席 者 （敬称略）	田村 亜美 小原 秀紀 今田 実 戸島 浩子 【欠席委員：4名】
事 務 局	地域振興室長 前川 朋久 地域振興室主任 今山 知紀 地域振興室主査 上原 慎太郎
次 第	1 開会 2 議事 （1）第4期スケジュール予定案の修正について 資料1 第4期スケジュール予定案 （2）各グループ分けと正副グループ長の選任について 資料2－1 第4期グループ分け（案） 資料2－2 第4期グループ分けアンケート集計 （3）各グループにおける進行事項について 資料3 はぐくむサポーター募集チラシ 資料4 授業見学報告書 資料5 協働の基本指針改定案 （4）自治と協働の職員研修について 資料6 昨年度職員研修報告書（抜粋） （5）検証シートの調査項目 資料7 検証シート最新版 3 その他 （1）はぐくむ条例全文の見直しについて 資料8 平田委員作成案 4 閉会

1 開会

- ・ 委員 19 名中 14 名出席により、委員会が成立していることを報告。
- ・ 傍聴者 1 名。
- ・ 議事録署名人は平家利也委員、米坂薫委員。
- ・ 堀内委員長より立花 隆「思考の技術」、糸川 英夫「未来をひらく着想」について情報提供。

2 議事

(1) 第 4 期スケジュール予定案の修正について（事務局より説明）

- ・ 第 4 期委員満了の令和 9 年で条例の策定委員会設立から 10 年を迎えるため、記念誌の作成を検討する。
 - 市民への情報共有の一環として内容等を議論し作成する。
- ・ 現時点でのスケジュールに合わせて時期を一部修正した。

(2) 各グループ分けと正副グループ長の選任について（事務局より説明）

- ・ アンケートを実施し、年齢・男女比などを考慮したグループ案を作成した。問題なければ各グループで正副グループ長を選定し、事務局へ報告頂きたい。
 - グループ分けについて異議なし。
 - グループ内協議も行うため正副グループ長の選任は委員会終了後がよいのでは。→委員会後とする。

(3) 各グループにおける進行事項について（事務局より説明）

○ 情報共有

- ・ 今年度からサポーター通信の市公式 LINE での配信を実施している。
- ・ 配信の内容や頻度、委員会活動の周知方法について議論いただきたい。

○ 市民参画

- ・ こどもパンフレットの全小学校配布にあたり、教育委員会での協働事例である共育コミュニティを所管する生涯学習課との連携を提案された。
- ・ 生涯学習課との連携の一環として、事務局において、共育コミュニティに係る授業見学を行い、その内容を資料 4 にまとめている。
- ・ こどもパンフレットを活用した授業実施を検討いただきたい。
- ・ まなびの日委員会ブースへの市民参画を促す方法を議論いただきたい。

○ 協働のまちづくり

- ・ 平成 19 年に策定した協働の基本指針の見直しにあたり、前回委員会の決定に基づき市が素案を作成した。
- ・ 参考とする自治体は
 - ① 本市と人口規模が似ている
 - ② 協働事業が活発であるを条件に chatGPT を活用し、岐阜県関市などの中から滋賀県高島市を選定した。

- 選定理由は以下の3点。
 - ① 市民・市民団体が協働を推進するにあたり、行政・中間支援組織の支援が手厚い。
 - ② 担い手不足が全国的な問題となる中、活動の終わりまで事前に考えている。
 - ③ 令和6年度に改定されている。(改定時期が最近)
- 委員長意見

他のグループ活動に興味がある方は自由に会議等参加してもらって構わない。
- 質疑
 - 各小学校はこどもパンフの存在や配布されることを知っているのか。
 - 城山、学文路小学校には授業での活用を打診済。その他学校には未周知。
 - 副市長や教育長も委員として在籍しているので、各グループに入ってもらい、委員会と学校がwin-winとなるよう意見を頂けばよいのでは。→事務局了解。
- (4) 自治と協働の職員研修について（事務局より説明）
 - 委員会では協働についての情報共有を目的に市民と職員で研修を実施している。
 - 去年は協働の実践者の声を聴くため市民・職員側から協働の事例発表を行い、発表内容を踏まえ協働についてワークショップを実施した。
 - 職員研修はグループを超えた専門チームによる作業を考えている。アンケートで希望者を募る。会議は本番までに3回程度を想定している。
- 委員長意見
 - 委員（市民）が考えた研修を職員が勤務時間中に協働で実施している事例は全国的にもなく、高く評価している。
 - 事務局は前に立たず、委員会が決めた内容を実行する裏方として動いてほしい。
 - 研修はこれまでどの時期に実施しているのか。
 - 3, 9, 11月に実施している。9月に実施したいが、委員の変わる時期は難しい。
 - 職員研修の開催時期については、行政側で早めに決定すること。
- (5) 検証シートの調査項目（事務局より説明）
 - 第2期委員会で条例検証シートを作成した。第3期提言書への掲載提案があったが、締め切りまでの時間の都合上、第4期委員会で検討となった。
 - 検討にあたっての考え方の一例として「市の見えたこと」を追記した。
- 委員長意見
 - それぞれの項目はどのように算出しているのか。
 - ① 条例の認知度（市民）はまなびの日の委員会のブース利用者へのアンケート
 - ② 条例の認知度（職員）は全職員を対象とした協働アンケート
 - ③ 条例HPアクセス数は市HP内の「はぐくむ条例」に紐づくページのアクセス数
 - 公募・女性委員比率は比較対象として委員会の数値も入れてはどうか。
 - はしもとプラチカのアクセス数は？
 - インスタグラムのフォロワーは500程度。

- 本シートの内容については今後精選するということによろしいか。→異議なし。

3 その他

(1) 条例全文の見直しについて（平田委員より説明）

- 前回委員会で見直しの提案があり、内容を提出いただいた。（事務局説明）
- 修正点は4点。私案であるため、取り扱いはお任せする。
- 見直し委員会はグループ活動や10周年記念誌の作成に合わせてでもよい。

○ 委員長意見

- 条例は県や市独自の法律で細かいことは書かない。
- 正副委員長で今期取り扱うかを検討し、次回委員会で報告する。→異議なし。
- 条例は市民、議会、職員にも徐々に浸透していくものであり、実務については随時見直しが必要であるが、基本的な根幹となる条例の見直しは慎重に考えたい。

(2) 全体を通しての質疑

- 資料1の事業計画は各グループにおいて作成を検討するものか。
 - この事業計画は条例の推進のため提言書の内容を受けて市が作成するもの。箇条書きでも構わないので市で整理して委員会に示してほしい。
- HPアクセス数の5,947はどの程度のものなのか。他のページと比較した際の位置づけを知ることができれば、モチベーションにつながる。→次回委員会で報告

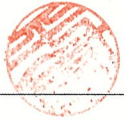
4 閉会

【会議録署名欄】

委員長

相内秀雄

【会議録署名欄】

委員 平家利也 

【会議録署名欄】

委員 米坂 薫